

◇川越八幡宮・縁結びイチョウに「異変」

川越市南通町にある川越八幡宮のご神木「縁結びイチョウ」の幹から、乳房に似た形をした「気根」が現れた。「縁結びだけでなく、**安産・子宝**にもご利益があるのではないか」と、若い夫婦が触りに来ている。

◇「**安産・子宝**にもご利益！」大人気

ご神木は、天皇陛下の生誕を祝って1933(昭和8)年12月、氏子がイチョウの雌雄の株を植樹した。2本の苗木は、根本でくっつく2本の幹が寄り添うように伸びた。この姿から「縁結びイチョウ」として、良縁を求める参拝者が訪れるようになった。

気根は茎や幹から空気中に出る根で、「乳」とも呼ばれる。大きさは現在、長さ30センチ、直径25センチほどで逆さの円錐(えんすい)型。昨秋に氏子が見つke、「ご神芽にしたら」と働きかけたところ、神社が今年1月、神事を行ってしめ縄を結んだ。

3月、「新たな命(乳)が誕生しました。乳に両手を触れて、手を合わせて念じると安産・子宝のご神徳があります」などと書いた案内板を設置したところ、口コミやインターネットなどで知られるようになったという。

同神社禰宜の榊原祥光さん(43)は「『子宝に恵まれました』『無事、子どもが誕生しました』と感謝の声寄せられています」。



ご神木「縁結びイチョウ」にできた「気根」を触る禰宜＝川越八幡宮

ご神木から伸びた“乳”に**安産**祈願 川越八幡宮の縁結びイチョウ

川越八幡宮(埼玉県川越市南通町)にある「縁結びイチョウ」の幹から伸びた乳房のような突起物が、子宝、安産を祈るパワースポットとして話題を集めている。八幡宮の禰宜、榊原祥光さん(43)は「子宝や安産だけでなく、神様の力をいただいてもすがすがしい生活を送ってもらえれば」と話している。

縁結びイチョウは昭和8年12月、天皇陛下のご誕生を祝して植樹されたご神木。雌雄の2本が植えられたが、いつしか寄り添って1本の木となった。

その後、仲むつまじい夫婦やカップルを思わせるさまから、縁結びの人気スポットに。女性誌にも取り上げられ、「全国から『お守りがほしい』とやってきます」(榊原さん)。

そのご神木の中ほどから、突起物が生まれ出てきたのは昨年春ごろ。榊原さんは「みるみる間に大きくなっていった」という。

八幡宮近くで5代続く庭師、小峯吉衛さんによると、この突起は通称「乳」と呼ばれるもの。正式名を「気根」といい、地上の茎から派生、樹体を支持するため伸びていくのだという。

乳は現在、長さ20センチあまりに成長。氏子からは「貴重なものだから、ご神芽にしたらどうか」との声が上がり、今年1月に神事を執り行い、しめ縄を張った。

縁結びのご神木に生まれた“子供”一。うわさは口コミで広がり、夫婦で乳に触れ、安産や子宝を祈願する姿が目立つようになった。乳に両手を添えた後、願いを込めて手を合わせるのが定番のお祈り法だ。

すでに、榊原さんの元には「初産で心配だったが安心して出産できた」などと、御利益に感謝する声が100件近く寄せられている。長男の階君(1)と八幡宮を訪れ、乳に手を合わせた川越市の主婦、福島美帆さん(34)は「神秘的なものを感じました。また子供を授かりたい」とほほえんでいた。



川越八幡宮のご神木「縁結びイチョウ」に“誕生”した「乳」が**安産**を祈願する新たなパワースポットとして人気だ

＝川越市南通町